



Title	急性期・慢性期別の病棟看護師のキャリア継続意向と ストレス経験および職務満足度
Author(s)	岸田, 利香; 伊藤, 美樹子
Citation	日本看護研究学会雑誌. 2006, 29(3), p. 136-136
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/52418">https://hdl.handle.net/11094/52418</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

### 63) 急性期・慢性期別の病棟看護師のキャリア継続意向とストレス経験および職務満足度

岸田利香, 伊藤美樹子 (大阪大学大学院医学系研究科)

#### 【目的】

看護師のキャリア継続意向がストレス経験や職務満足度とどのような関係にあるのかを, 急性期・慢性期の病棟別に検討することを目的とした。本検討を通して, 看護師のキャリア継続意向を高めるための方策を明らかにすることができ, ひいては離職を低減することに寄与することができる。

#### 【研究方法】

K系列全病院の病棟看護師を対象とし無記名の質問紙調査を行った(2005年3月)。各病院の看護部長宛に研究の目的と方法を説明した後に1068通の配票を依頼し, 対象者の師長を通じて回収した(回収率97.0%, 有効回答76.8%)。倫理的配慮として, 依頼文に調査目的, 無記名で回答から個人を特定できないこと, 学術目的に限り公表することを明記した。調査項目は, 年齢や同居家族などの個人特性, 有給休暇日数, 超過勤務時間などの労働状況, 看護師としてのキャリア継続意向(以下「継続意向」), 職務満足度(大変満足を100点満点としたアナログスケール), ストレス経験(得点が高いほどストレス経験が多い: 4段階)などで, いずれも筆者が考案した。分析は病期・継続意向別に分けた変数に対して, 一元配置分散分析を行った。

#### 【結果】

対象者の年齢は, 急性期  $28.97 \pm 6.0$  歳で慢性期 ( $32.46 \pm 8.6$  歳) より有意に若い健康問題がある割合(急性: 慢性, 48.1%: 43.2%)は急性期の方が高かった。また継続意向がある割合(40.8%: 47.0%)は慢性期病棟に高いが, 希望通りに配属された割合(55.0%: 27.1%)は急性期病棟が多かった。次に, 病棟別に継続意向ありに関連する要因を検討したところ, 両期共に年齢, 同居家族(-)に有意差があり, 労働状況では有給休暇の少なさを以外に有意差を認めなかった。また, 急性期では継続意向があり群が, 自分の能力, 看護援助のジレンマ, 看護業務などに関するストレス経験が有意に低く, 職務満足度は, 看護師としての自律性, 看護に取り組む姿勢, 提供している看護の質に対するものが有意に高かった。これに対し, 慢性期では, 継続意向あり群では自分の能力, 患者や家族へのサポートなどのストレス経験が有意に少なかったが, 看護援助のジレンマ, 看護業務に有意差は認められなかった。また職務満足度と継続意向との有意な関連はなかった。

#### 【考察】

同じ組織の中でも, 対象の病期によって, 病棟看護師の労働状況, 勤務上のストレスや満足感などが異なることが分かった。急性期では, 業務や援助におけるジレンマに関するストレスを緩和することや, 職務満足度を高めることで, 継続意向を維持させる可能性がある。一方慢性期では, 職務満足度は継続意向と有意な関連は認められず, ストレス管理や軽減が課題であることが示唆された。